2024年10月4日（金）
令和6年度リハ専門委員会報告会

実現可能な間接的介入に関する調査

全国病院経営管理学会
リハ専門委員会　副幹事
松山太士

本調査における間接的介入の定義

リハ専門職が直接的に対象者に提供する個別療法以外の「疾患別リハ料を算定していない介入」

例）・ADL向上に向けた他職種との連携
・入院中の家族指導及び情報提供 等

本調査の目的

間接的介入の重要性は認識しているものの、
実施には人員や時間、収益性の面での課題が大きい

2022年度全国病院経営管理学会リハビリ専門委員会「間接的介入の実態調査」（n=53）

2024年度のアンケート調査目的

- 「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か
- 「成果を担保する間接的介入」の成果はどのように評価すべきか

を明らかにすること

施設形態（複数選択可）

N=318

リハビリスタッフ数

N=318

- 10人以下
- 11人～50人
- 51人～100人
- 100人以上

間接的介入を行なっているか？

N=318

実施している具体的な間接的介入の例を教えてください（複数回答可）

実施している具体的な間接的介入特に有効と思われるもの（３つ選択）

N=318

全国病院経営管理学会リハ専門委員会

特に有効と思われる間接的介入の番号と理由を最大３つまで教えてください（例　①：・・・のため）

1.ADL・IADL向上に向けた他職種との連携

1. できるADLとしているADLとの乖離の是正に有効
2. 安全な療養環境の確保と効果的なリハビリテーションの実施が可能
3. 早期在宅復帰と入院日数の短縮に有効

2.入院中の家族指導および情報提供

1. 退院後の運動指導に役立つ
2. 退院後の生活イメージや家族の想いを確認・共有できる
3. 退院後のリスク管理、再発予防や再転倒予防に役立つ

3.口腔・栄養に関する他職種との連携

1. 食形態や食事介助方法を他職種と共有し病棟で実践してもらうことが重要
2. 口腔嚥下機能の評価をするだけでは意味が無く、評価に基づいた病棟での実践が重要
3. 嚥下機能や口腔ケア、栄養状態は退院先の選定に影響を与えるため

結論

他職種との連携と家族との連携が重要。

- 他職種との連携：リハビリ室（リハビリ時間）と病棟との乖離を是正
- 家族指導と情報共有：入院中と退院後の乖離を是正

間接的介入の成果を評価するためにはどのような指標が有効だと考えますか？（複数回答歓迎）

N=318

間接的介入のできる人材像は具体的にどのような方ですか？

N=318

間接的介入のできる人材像は具体的にどのような方ですか？

1.多職種連携スキル

・自身の専門性を押し付けない
・他職種の専門性や役割を理解し協働できる
・他部署・他事業所と建設的な人間関係を築ける

2.コミュニケーション能力：

・患者や家族と対話し協力を得ることができる
・情報を簡潔に提示でき、意見を言うことができる
・周囲への気配りや調整ができる

3.問題解決力

・定型的な業務にこだわらず、状況に応じて柔軟に対応できる
・退院後の生活を具体的にイメージし、プランニングできる
・患者ニーズを引き出し具現化できる

間接的介入を実施するうえでの障壁は何ですか？（複数選択可）

N=318

全国病院経営管理学会リハ専門委員会

障壁を乗り越えるために工夫した点や苦労した点を具体的に教えてください

※間接的介入をしている群

1.コミュニケーションの強化
- 多職種との密な連絡や情報共有
- カンファレンスや会議の頻繁な開催
- 電子カルテや掲示板を用いた情報の可視化と共有
- 患者の状態や状況を周知させるためのメールやインフォメーションの活用

2. 教育と意識改革
- 職員の意識改革や啓蒙活動
- 勉強会やOJT（On-the-Job Training）の実施
- 成功例の症例報告や事例紹介
- 他部署との勉強会や発表の場を積極的に設ける

3. 管理職や経営幹部への理解促進
- 幹部ヒアリングでの説明や意見交換
- 数字やデータで効果を示す工夫
- 収益や業務量の見える化
- 経営幹部への継続的な説明と協力要請

4. 業務の効率化
- 業務内容の整理と可視化
- 書類業務の整理
- 勤務形態の調整や見直し
- 役割分担や業務の分業整理

5. 多職種との連携強化
- 他職種との役割理解と協力体制の構築
- 看護師や介護職との共通目標の共有と共同作業

6. 患者家族や在宅支援職との協力
- 患者家族や担当ケアマネジャーへの現状の情報提供
- 患者家族の理解と協力を得るための活動

7. 組織内の体制整備
- 専従スタッフの配置
- 増員計画や人員配置の見直し
- 各部署の状況に応じた体制構築

現在、直接的介入として個別療法として行っているプログラムの中で、間接的介入に移行できると考えられるプログラムはありますか？

N=318

具体的なプログラム名を記載してください（複数回答可）

N=318

全国病院経営管理学会リハ専門委員会

今後リハビリテーションにおける間接的介入に応用できそうな他分野や業界などで見られるアイデア・機器・システムがあれば教えてください

N=318

1.AIの活用
・予後予測、退院後の生活像提案、リハビリプログラムの立案
・AIによる身体機能評価システム（シセイカルテ）
・AIによる認知機能評価システム

2.動画配信・Web会議アプリ
・映像コンテンツを活用した自主トレ、集団リハビリ
・患者の状況把握や指導のための動画配信
・遠隔診療、遠隔リハビリシステム
・家族とのオンライン面談、リモート会議

3.ウェアラブルデバイス
・活動量計、スマートウォッチ
・睡眠状況の可視化
・スマートウォッチ（脈拍、SPO2、活動量）

4.ロボット
・見守りロボット、介助サポートロボット、ロボット歩行器
・（会話ができる）認知症予防ロボット
・高機能ベッド

5.DX化の促進
・PHR（Personal Health Record）：個人の医療データの集約とDX化
・EHR（Electronic Health Record)：地域医療連携ネットワークのDX化
・カルテ入力システム（音声入力など）
・テンプレート化した報告書出力

6.Virtual Realituy技術の活用
・VRを使ったゲームや認知機能・高次脳機能向上のためのツール

.その他のアイデア
・人手不足解消のための短期人材派遣（リハビリ版タイミー）
※介護・看護版は既存サービスあり
・ボランティアスタッフの登用

将来的にリハビリテーションの分野で実現してみたい間接的介入はありますか？

・AIやメタバースなどテクノロジーの利用

・院内デイケアの充実

・転倒転落のリスク管理とその対策

・地域に出向いての健康教室や予防的リハビリテーション
・幼稚園や保育園での姿勢や運動に対する介入

その介入を実現するためには何が必要だと思いますか？

・間接的介入が評価される診療報酬制度の変更
（包括的な報酬体系の導入）
・スタッフの増員や予算の確保

・リハビリテーション用の施設や機器の導入
・デジタル機器の導入とITインフラの整備

・AI技術や遠隔医療システムの導入と普及

・他職種や家族の理解と協力を得るための教育や啓蒙

本アンケート調査の目的

間接的介入の重要性は認識しているものの、
実施には人員や時間、収益性の面での課題が大きい

2022年度全国病院経営管理学会リハビリ専門委員会「間接的介入の実態調査」（n=53）

2024年度のアンケート調査目的

- 「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か
- 「成果を担保する間接的介入」の成果はどのように評価すべきか

を明らかにすること

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言①

「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か

具体的に挙げられた「間接的介入のアイデアや実践例」を以下のように整理

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言①

「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か

※赤字は調査結果に加えてリハビリ専門委員が提言として追加した内容

1.部門単位

- 映像コンテンツを活用した自主トレ、集団リハビリ
- 患者の状況把握や指導のための動画配信
- 遠隔診療、遠隔リハビリシステム
- 家族とのオンライン面談、リモート会議
- 自主トレ指導や病棟生活指導（自助具の活用含む）と管理・活動量の管理
- カルテ入力システム（音声入力など）
- テンプレート化した報告書出力
- VRを使ったゲームや認知機能・高次脳機能向上のためのツール
- 人手不足解消のための短期人材派遣（リハビリ版タイミー）

  ※介護・看護版は既存サービスあり

当院におけるリハワーカーの役割と実際
演者：山口めぐみ
（燿光リハビリテーション病院
リハビリテーション部 次長）

- ボランティアスタッフの登用
- Point Of Care（地域包括ケア病棟における個別２単位以上の間接的介入）
- リハビリプログラム時間割合の最適化

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言①

「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か

※赤字は調査結果に加えてリハビリ専門委員が提言として追加した内容

2.病棟単位

- 総合的なフレイル予防　（スクリーニング、チェックリストを基に地域包括支援センターとの協働）
- ベッドサイド環境調整
- 転倒予防
- 褥瘡予防
- 退院支援（家族指導、福祉用具、住宅改修、在宅サービスの提言とケアプランへの関与）
- 地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟の入口管理
  （ADL帰結予測の基づき目標設定と入院計画の立案、在院日数の予測と進捗管理）
- ST疾患別リハ患者以外での入院時嚥下評価

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言①

「成果を担保する間接的介入」とは具体的に何か

※赤字は調査結果に加えてリハビリ専門委員が提言として追加した内容

3.病院・法人単位

・ベッドコントロールに関与する
（DPC期間、医療看護必要度、ADL帰結予測の基づき目標設定と在院日数の予測、その進捗管理）
・法人内の医療介護連携

4.地域単位

・在宅支援事業者や介護福祉関係者との連携（地域資源の把握と連携・活用）
・PHR（Personal Health Record）：個人の医療データの集約とDX化
・EHR（Electronic Health Record)：地域医療連携ネットワークのDX化
・地域におけるリハビリテーションに関する課題の解決
（地域リハビリテーション活動支援事業、地域住民への健康予防教室、小学校への運動器身体計測など）
・自治体や関連団体との折衝
・地域包括ケアシステム構築の支援

間接的介入の例①：身体活動量計を活用し行動変容を促す

Active style Pro
(オムロンヘルスケア社製)

Microsoft Office
Excel® マクロ

座位行動
1.5 METs 以下
（寝ているか座っている）

軽強度活動
1.6～2.9 METs
（立って動いている）

中高強度活動
3.0 METs 以上
（ウォーキングや階段）

（石垣ら：地域理学療法学.2022) (石垣.2019)

間接的介入の例②：DX化によりリハビリ内容を可視化・最適化

例）急性期病棟：時期に応じたプログラム時間割合の最適化
専従療法士と疾患別リハビリの割合最適化
回復期リハビリ病棟：時期に応じたプログラム時間割合の最適化
PT2回＋OT1回介入の日とPT1回＋OT2回介入の日では差が出る
地域包括ケア病棟：時期に応じた個別プログラムと集団プログラムの最適化

SCENE
10 リハビリ状況の可視化

オーバービュー機能でリハビリを時系列に可視化

患者様の短期・長期の目標、到達予定日とともに、患者様への訓練内容、ADL能力を俯瞰することができます。

全国病院経営管理学会リハ専門委員会

■出典(2024年10月4日)
著作者　：　タック株式会社
ＨＰ　：　タックリハビリテーション支援システム｜療法士様の作業を効率化
タイトル：　主な機能
ＵＲＬ　：　https://www.taknet.co.jp/reha/functions

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言②

「成果を担保する間接的介入」の成果はどのように評価すべきか

【今回抽出した成果指標】

- ADL指標
- 満足度指標
- 合併症関連指標（栄養、せん妄、誤嚥性肺炎etc）
- 在院日数
- 転倒指標
- 在宅復帰指標
- 再入院指標

今回は、間接的介入の成果指標を**探索的**に抽出

しかし、**目的に適った**成果指標を**網羅的**に抽出できたとはいえない

【今後の展望】

直接的介入のみでは解決できない**課題**を整理

↓

成果を担保する間接的介入を議論・実践し具体化

↓

介入ごとの成果指標や**評価のあり方**を議論し具体化

本調査結果を踏まえリハビリ専門委員会からの提言③

間接的介入の重要性は認識しているものの、
実施には人員や時間、収益性の面での課題が大きい

2022年度全国病院経営管理学会リハビリ専門委員会「間接的介入の実態調査」（n=53）

「間接的介入の意義や妥当性を如何に共有したか」
演者：大田英登 （常滑市民病院 リハビリテーションセンター 技師長）

を参考に、グループワークで議論しましょう！